

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572710226		
法人名	特定非営利活動法人 ファミーユ		
事業所名	グループホームゆっくりゆっくり		
所在地	秋田県横手市十文字町上鍋倉字勘六村雷9		
自己評価作成日	平成30年8月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成30年9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別支援を心がけ、その人らしく生き生きとした生活が送れるよう全職員で取り組んでいます。広い庭を利用し、散策や畑仕事等、ご利用者が活躍できる場面をつくり、日々新たな発見ができるよう支援しています。また、職員の技能向上のため、職場内研修や外部研修等にも積極的に参加するようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は常に利用者・職員と一緒に作り上げていく姿勢を大事にし、意見を出しやすい雰囲気、楽しい場面づくりを心掛けている。職員は話し合いの機会を多く持ち、日々の暮らしの中で利用者一人ひとりが今できることを見つけ、その人らしさが発揮できるよう支援している。畑作物の収穫時期には利用者が活躍できる場面が作られている。ホームは広い敷地に建ち、樹木や畑があり、四季の移ろいを身近で感じることができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を玄関に掲示し、いつでも確認できるようにしています。毎日のミーティングや内部研修等でも確認しており、ホームの理念を常に念頭に置き、日々の仕事に努めています。	利用者の言動を否定せず、共感することを常に心がけたケアをすることを職員全員が共通認識として持つよう日々のミーティングや内部研修等で確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や部落内の行事等へ参加し、交流を深めています。地域の保育所や小学校との交流もあります。	自治会行事や会議、保育所・学校行事等に参加したり、ホームの行事に保育所の子供たちが参加するなど地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	自治会や部落行事の際には、ホームの状況等を説明し、介護についての相談等も受けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの状況や行事の報告等、生活の様子をお知らせし、記録も残しています。会議で得られた意見や改善点等は速やかに協議し、サービスの向上につなげるようにしています。	2か月ごと定期的に開催され、毎回和やかな雰囲気の中で意見交換されている状況が議事録から伺うことができた。困難ケースの対応についてアドバイスをもらったり、具体的な課題を提示することでホームの現状を理解してもらうようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者の運営推進会議への参加をお願いし、サービス状況等を報告しています。また、地域ケア会議等にも参加し、協力関係を築けるよう努めています。	連絡や相談があれば都度市町村に連絡する体制ができています。管理者が月1回地域ケア会議に出席したり、地域包括支援センター職員2名が毎月2回来訪するなど市町村と事業所の連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアル等を利用し、勉強会を開催しています。また、各研修へ参加し、会議やミーティングで全職員に周知できる体制をつくっています。	年間の研修計画に「高齢者虐待防止」「身体拘束排除」等の内容を盛り込み、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、「アザノート」を設け、虐待が見過されることのないよう朝夕の申し送りで職員が内容を確認し合い、要因を探る努力を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、内部研修やミーティング等で確認しています。アザノートもあります。虐待が見過されることのないよう職員間で気付きをもって日々の業務に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や内部研修で学ぶ機会をつくっています。必要な方には情報提供しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書等を利用しながら、ご利用者やご家族が安心して利用できるよう説明しています。また、改定があった際にも、文書等説明し、同意をいただくようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があります。家族会での意見交換や、面会時や電話で意見や要望を聞くようにし、日頃より何でも話せる関係づくりを心掛けています。月に2回、市の相談員の訪問があり、ご利用者との交流があります。	家族会総会や個別の面会、電話等で意見や要望を聞いている。日常的に何でも話せる雰囲気や関係づくりを心掛けているが、今のところ運営に関する意見・要望は特にはない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	内部研修やミーティングを通して職員の意見等を聞く機会を設けています。それらを運営に反映できるよう努めています。	代表者(会長)とは管理者をはじめ他の職員も意見や提案をし易い関係にある。代表(会長)は随時職員との個別面談を行っている他、管理者も職員からの相談に随時応じる体制をとっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの資格や特技などが活かせるように配慮しています。また、個々の事情に合わせた勤務体制や、キャリアアップへの支援等、各自のやる気と自信を引き出すことが出来ているよう支援しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のやる気を尊重しています。職員個々の力量を把握し、スキルアップできるよう取り組んでいます。また、資格習得に向け、勤務の調整も行います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横手市グループホーム協会に参加しています。勉強会等で交流する機会を持っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査の段階で、十分に話を聞き、ご本人の不安を取り除くよう努めています。入居前にホームの見学をお願いし、雰囲気を感じてもらえるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査の段階で、十分に話を聞く機会をつくっています。場合によってはグループホーム以外の介護サービスに対する助言等を行っています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常にご利用者と共に生活していることを意識して働いています。家事を分担したり、余暇活動等でご本人の能力を活かしながら、暮らしを共にする者同士の関係作りに取り組んでいます。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密にし、情報を共有しながら、信頼関係が築けるよう努めています。行事への参加や通院の協力、家族会等ご家族と会える機会を設けています。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴等の情報を収集し、本人の馴染みの人や場所の把握に努めています(主治医を変えない等)また、家族の協力を得て、馴染みの場所へ外出するなど支援に努めています。	家族対応で外出や外泊、美容院利用などを行っている方以外は職員が随時対応している。理美容は訪問を依頼する方がほとんどであるが、近隣への散歩やドライブ、懐かしい食べ物(饅頭、バナナ等)購入など随時利用者の要望に応じた対応に努めている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者一人ひとりの性格や状態を見極め、席の配慮やレクリエーションの内容を工夫しています。職員が仲介することでご利用者同士が関われるよう支援しています。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、退所先への情報提供を行っています。利用中に築いた信頼関係を大切に、サービスが終了した後も相談や支援ができるよう努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話等を通して、一人ひとりの暮らしの希望や意向が把握できるよう努めています。確認が困難な場合には家族の意向を伺い、本人の立場で検討するようにしています。	日常会話等を通して、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。好むと思われる活動を提供しても継続できない場合は、随時別の場面設定をし、本人ができるだけ満足できるような工夫をしている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者やご家族、担当ケアマネより、趣味や嗜好、生活歴等について情報収集をしています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活のなかでご利用者の性格や行動を把握し、場面に適した支えあいを支援しています。日々の状態観察やケース記録、申し送りを通じ、本人の状態を共有できるよう取り組んでいます。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員を中心に、会議やミーティング等課題について検討しています。ご家族とは、面会等を利用して、本人がより良く暮らせるよう話し合い、現状に合った介護計画の作成に努めています。	職員のミーティングで意見交換した後、ケア会議で更に検討を重ね、最終的に計画作成担当者が介護計画を作成するプロセスが定着している。日々の申し送りや「アザノート」の記録も介護計画の作成に反映させている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録やヒヤリハット、申し送りノート、ミーティングなどを活用し、職員間で日々の様子や気づきなどを共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や地域包括支援センター等より情報収集を行い、地域資源の把握に努めています。各種ボランティアの受け入れ、医師の往診等、関係機関の協力を得ながら支援しています。地域のイベント情報を収集し、行事を計画しています。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を大切にし、医療機関を決定しています。往診可能な歯科医を確保し、薬局についても気軽に相談できる体制をとっています。	本人や家族の希望に応じた医療機関を決定している。また、往診可能な歯科医や薬局との連携がとれており、気軽に相談できる体制ができている。医療機関への受診結果は随時家族に報告し、情報を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師と相談できる体制を整えています。必要に応じて、かかりつけ医やその病院の看護師とも連絡できるような取り組みをしています。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、病院に対して情報提供しています。ご家族、病院と連絡をとりながら、早期退院に向け話し合っています。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期に向けた話し合いを早い段階から相談し、事業所でできることを十分に説明しながら関係機関とチームケアでの支援に取り組んでいます。	「重度化した場合における対応にかかる指針」に基づいた説明を入居時に行い、「重度化介護についての同意書」をもらっている。また、状態の変化に応じた話し合いを重ね、対応方法のフロー図を作成している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル等を利用し、内部研修で対応等を確認しています。また、救命蘇生の講習会を年1回開催し、応急処置についても学んでいます。繰り返し受講することで、実践力を身に付けています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害対策計画を作り、内部研修等で確認しています。事前に個々の状態にあった避難方法を話し合い、避難訓練等を実施しています。火災等発生時は地域の協力を得られる体制にあります。	防災計画に基づき毎月の避難訓練の他、年2回、地域の消防署の協力を得た訓練を実施している。昨年度末に設置された自動火災通報装置の使用訓練や連絡先の周知、備蓄品の確認等はまだ行われていない。また、避難訓練に地域住民の協力が得られていない。	防災計画に基づいた避難訓練を定期的に実施し、災害発生時に確実に避難誘導できるよう取り組んでいる。今後、防災マニュアルに基づいた備蓄品の再確認や地域住民の参加協力などを実施することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格等を把握し、守秘義務を守りながら、ご利用者の自尊心を傷つけないような声掛けや対応を心掛けています。	利用者の自尊心を傷つけないような声掛けや対応を心掛けている。特に、他の利用者がある場面では、排泄や入浴の声掛けを大きな声でしないよう職員に注意喚起している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話に耳を傾け、思いや希望が表せる状況をつくるように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の体調や希望を把握しながら、その方のペースで生活していただけるよう支援しています。その都度ご本人の意思を確認する声掛けをしています。食事時間と入浴の時間は概ね決まっていますが、ご利用者の希望により対応できるよう支援しています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを尊重し支援しています。自分で決められないご利用者には、職員と相談しながらそれぞれのおしゃれを支援しています。理美容院へ行ったり、ホームに訪問していただき、希望にあった髪型の支援をしています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭きや調理の下ごしらえ、片づけ等、ご利用者と職員と一緒に取り組めるようにしています。献立や食材の話題で、食事への関心がもてるよう支援しています。食事中も楽しい雰囲気がつくれるよう話題にも気をつけています。	食事前のテーブル拭きや調理の下ごしらえ、片づけ等、利用者と職員と一緒に取り組んでいる。また、食事への関心がもてるよう献立や食材の話題提供を心掛けている。臥床傾向にある方も車椅子に移乗し、食事を楽しめるよう支援している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病等により、食事管理が必要な方には、主治医の指導を受け対応しています。水分制限のある方には軽量カップで、一日の水分摂取量が分かるようにしています。お粥や刻み等、食事形態にも配慮しています。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアに取り組んでいます。自立支援を意識しながら、必要に応じて介助するようにしています。必要な方には、歯科衛生士の訪問を依頼することもあります。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄を支援しています。個々の排泄状況を把握し、失敗をなくすよう、さりげない声掛けや誘導をしています。失敗があっても、プライバシーに配慮し、騒がず静かに交換するようにしています。	リハビリパンツを使用している方の割合は多いが、安易にオムツへ移行せず、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。失敗があっても騒がず、静かに交換するようにしている。重度化し、ほぼ寝たきりに近い状態になった場合はやむを得ずおむつ対応としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の活用。水分や食事の配慮、適度な運動への働きかけを行い、便秘の予防に努めています。必要に応じ主治医に相談することもあります。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴は週3回となっていますが、状況や希望によりいつでも入浴できるよう支援しています。疾患等により制限される場合は、主治医の指導のもと入浴しています。また、同性介助に努めています。	曜日の特定はせず、週3回は入浴してもらうよう支援している。億劫がったり拒否的な方には無理強いせず、時間を置いたり話題を変えて気分転換を図るなどして対応している。同性介助を基本としている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠のあるご利用者には昼夜逆転にならないよう、日中活動の充実を図っています。午前10時、午後3時にお茶の時間を設けていますが、それ以外にも状況を見ながら休憩(お茶、横になる等)できるように支援しています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の記録と共に服薬の説明書もファイルに綴じ、全職員が確認できるようにしています。また、特別な薬についてはその使用方法、副作用等詳しい内容をミーティング等で把握できるようにしています。服薬変更後の状態については、必要に応じ医師や薬剤師と相談できる体制をつくっています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレクリエーション、畑仕事や家事等状況を見ながら個々が活躍できる場面をつくっています。状態や生活歴を勘案し、個々に合った役割を持ってもらい、喜びや張りのある日々を過ごせるよう支援しています。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望にそって外出できるよう支援しています。ドライブや庭の散歩、1号館、2号館との交流、外食等を行っています。自宅への外出、外泊希望にも、ご家族と相談しながら実現にむけ取り組んでいます。	ドライブやホーム周辺の散歩、1号館、2号館との交流、外食等を行っている。自宅への外出、外泊は家族の協力を得て行っている。ホーム全体の外出は、利用する車両の調整に苦慮することもあるが、観桜、あやめ祭り、芝桜見学、七夕絵灯ろう祭り、犬っこ祭り等懐かしい場所に出掛け楽しんだり、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望を確認し、ご家族の了承の元、自己管理されている方がいます。自己管理の難しい方は、小遣い預かりサービスを利用しています。行事や買い物等、お金を使う機会をつくっています。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に対応しています。電話は居室で、子機を使用しています。携帯電話を持っている方もいます。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気づくりを心がけています。季節を感じられる絵や花を飾ったり、物品にも気を配っています。随時換気を行い、温度調節にも気をつけています。安全で清潔な状態が維持できるよう、掃除や整頓を行っています。	季節を感じられる絵や花を飾ったり、懐かしい調度品を置くなど家庭的な雰囲気を作っている。ペレットストーブが設置され、冬場は薪ストーブと同じような温かさを感じられるようにしている。共用空間は、不快や混乱をまねくような刺激は感じられない。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは一箇所ですが、テーブルが分かれて、それぞれ気の合った人同士が過ごせるように配慮しています。またひとりになることもできるよう廊下にソファを設置し対応しています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境が変わっても居心地良く過ごしていただけるよう持ち物や配置について相談しています。使い慣れたものや好きな物等、自宅で使用していた物を持ち込んで頂けるよう対応しています。	入居に際しては、新しい物ではなく、自宅で使い慣れたものを持ち込んでもらうよう説明している。使い慣れたベッド、寝具、テレビ、冷蔵庫など個々に持ち込まれている。エアコンやファンヒーターは希望に応じて個々に設置してもらうことになっている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活歴や家族等からの情報のもと、その人らしく生活ができるよう心がけています。個別に「出来る事、出来ない事」を確認し、危険を事前に回避し、安全な生活を送って頂くように支援しています。		